

船橋市リハビリセンター
令和元年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

目次

I	管理の実施状況	1
1	センター基盤の整備	1
(1)	組織編成	1
(2)	情報システムの構築	2
(3)	職員の資質向上	2
2	サービス機能	2
(1)	職員配置	2
(2)	提供したサービス	3
3	地域連携・ネットワーキング	4
(1)	回復期病棟を持つ病院との連携	4
(2)	医師会との連携	4
(3)	地域の診療所や介護サービス事業者との連携	4
II	利用状況	6
1	外来患者	6
(1)	外来患者数	6
(2)	月別外来患者（延べ人数）内訳	6
(3)	年齢別・男女別外来患者内訳	8
(4)	疾患別外来患者内訳	9
(5)	地域別外来患者内訳	9
2	通所リハビリテーション利用者	11
(1)	通所リハビリテーション利用者数	11
(2)	月別通所リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	11
(3)	年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳	12
(4)	疾患別通所リハビリテーション利用者内訳	12
(5)	介護度別分類	13
(6)	地域別通所リハビリテーション利用者内訳	13
3	訪問リハビリテーション利用者	15
(1)	訪問リハビリテーション利用者数	15
(2)	月別訪問リハビリテーション利用者（延べ人数）内訳	15
(3)	年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
(4)	疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳	16
(5)	介護度別分類	17
(6)	地域別訪問リハビリテーション利用者内訳	18
4	訪問看護利用者	19
(1)	訪問看護利用者数	19

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳	19
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳	20
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳	20
(5) 介護度別分類	21
(6) 地域別訪問看護利用者内訳	22
5 地域リハビリテーション拠点事業	23
6 リハビリ事業	23
(1) パワーリハビリ教室	23
(2) パワーリハフォロー	24
(3) プールリハビリ	24
Ⅲ 収支状況	26
Ⅳ 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	28
(1) 目標1 利用者アンケートによる患者満足度（外来患者について）	28
(2) 目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	30
(3) 目標3 通所リハビリ利用者について（介護福祉士の占める割合）	32
(4) 目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割 合100分の30以上	33
(5) 目標5 利用者アンケートによる患者満足度（通所リハビリ利用者について）	34
(6) 目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の 達成率	36
(7) 目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、 勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	38
(8) 目標8 利用者アンケートによる患者満足度（訪問リハビリ利用者について）	39
(9) 目標9 利用者アンケートによる患者満足度（訪問看護利用者について）	41
(10) 目標10 利用者アンケートによる患者満足度（リハビリ事業利用者について）	42
(11) 目標11 財務内容の改善に関する事項（診療所）	44
(12) 目標12 財務内容の改善に関する事項（訪問看護）	45
(13) 目標13 地域リハビリテーション拠点事業	46

（資 料）

資料1 組織図	資料7 訪問看護アンケート
資料2 センター内外の研修・学会	資料8 リハビリ事業アンケート
資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績	資料9 地域リハビリテーション拠点事業 アンケート
資料4 外来患者アンケート	
資料5 通所リハビリテーションアンケート	
資料6 訪問リハビリテーションアンケート	

I 管理の実施状況

1 センター基盤の整備

(1) 組織編成

リハビリセンターの組織編成は、センター長を補佐する役割として、副センター長を配置した。以下、クリニック部門、サポート部門、船橋市委託事業部門の3つのセクションを配置し、それぞれの部門においてセンターの基本となるクリニック事業（外来リハ・通所リハ・訪問リハ）、リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）、地域リハビリテーション拠点事業、職員の資質向上、事務の業務を担当し、医療安全、個人情報保護等センターを運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各事業と主な委員会の役割は次のとおり。（資料1 組織図）

A クリニック事業

クリニックは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療及びリハビリテーションを担当した。

B 訪問看護

訪問看護は看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属し、訪問看護ステーションの利用者の看護及びリハビリテーションを担当した。

C リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）

リハビリ事業は、理学療法士、健康運動指導士を配置し、利用者の筋力マシンを使用するトレーニングの相談やアドバイス、プールリハビリの水中歩行訓練等を担当した。

D 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーション拠点事業は、ソーシャルワーカーを配置し、リハビリについての啓発活動、リハビリ関係者の育成、医療及び介護の連携強化、リハビリの実態把握、リハビリの総合相談を担当した。

E サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、総務・人事、施設管理、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

F 主な委員会の担当事項

①医療安全委員会及び感染対策委員会

医療安全委員会は、センター内における事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。センター内で起こる「ヒヤリハット」報告に対して検討し、事故を未然に防ぐべく対策を提案した。感染対策委員会は、センター内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、院内衛生管理の万全を期した。感染予防に対する意識を高めるため、手洗いキットを使用

し、自らの手洗い方法を見直す機会を設けた。ノロウイルス感染対策として、嘔吐があった場合の対応について、動画を交えた勉強会を実施した。

②個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、センター長からの諮問により開示申請者の適否・開示情報の範囲、開示の可否について審査する体制を整えている。

③サービス向上委員会

患者のアメニティーの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、御意見箱を設置し、患者等の苦情に対応する体制を整えた。生花の配置、患者満足度調査等を行った。接遇向上を目指して、各スタッフの接遇に対する意識を共有するため、朝礼の際にスピーチする機会を設けた。また、センター運営の透明性を確保するため、センター内の情報を公開して、事業内容を刊行物にて提供した。

(2) 情報システムの構築

リハビリセンタークリニックで行う診療はチームで行い、電子カルテシステムを導入し、患者の状況・治療の目標等の患者情報を共有している。この電子カルテにより、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与した。

(3) 職員の資質向上

効果的なリハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、職員には当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部門の業務体制についても研修を行った。

職員には全体会議や朝のミーティングを通じて、社会人や大人としての礼儀作法・身だしなみ、言葉遣い等の接遇に関する研修を行うなど意識付けを行った。

(資料2 センター内外の研修・学会)

2 サービス機能

(1) 職員配置

区分	令和元年度
センター長兼院長兼医師	1
副センター長	1
チームマネジャー（看護師）	1
チームマネジャー（作業療法士）	1
看護師	3

医師	1 (1)
ケアワーカー	3 (1)
理学療法士	13 (1)
作業療法士	5
言語聴覚士	2
ソーシャルワーカー	1 (1)
健康運動指導士	2 (1)
サポート部(事務)	6 (1)
運転手	10 (10)
総計	50 (16)

() 内非常勤職員数

(2) 提供したサービス

ア) 外来リハビリテーション

通院による外来リハビリテーションを提供した。混雑した場合には個別リハビリテーションが十分に提供できなくなることからサービスの提供は予約制とした。また、リハビリテーション科の医師の診察等には一定以上の時間を要することから初回受付も予約制とした。

イ) 通所リハビリテーション

利用者が可能な限り居宅においてその能力に応じ、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及びその重症化の予防、軽減ができるよう介護（予防）通所リハビリテーションサービスを提供した。対象は要支援1・2もしくは、要介護1から5の方とし、個別リハ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の実施に加えて自主トレーニングを行う時間を設け、1回およそ70分で行った。

ウ) 訪問リハビリテーション

利用者の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活活動の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように訪問リハビリテーションを通じた支援を行った。サービス提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

エ) 訪問看護ステーション

利用者の心身の特性を踏まえて、個々に応じたケアを実施することで心身の活力を維持し、より安全な在宅療養生活を送れるよう支援した。また、サービスの特性から地域におけるニーズとして、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活が送れるように24時間の緊急時の対応を行った。サービスの提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

オ) 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーションの普及を図る目的から、リハビリ関係者向け講演会として研究大会（年1回）、リハビリ関係者向け研修会として介護職員向け勉強会（年9回）・地区勉強会（年3回）・摂食栄養サポート勉強会（年1回）の計13回を実施し、市民向け講演会（年2回）、市民向け研修会（年2回）を実施したほか、センターパンフレット・地域リハビリ推進用リーフレット・センター刊行物の作成及び配布、ホームページ運営、生活期リハに関する調査研究報告（2回）を行った。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月に予定していた介護職員向け勉強会1回と摂食栄養サポート勉強会1回、3月に予定していた研究大会1回がそれぞれ中止となった。

（資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績）

カ) リハビリ事業

増加する事業利用者の安全確保のため、予約システムを導入し、下記事業を実施した。ただし、リハビリ事業は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月29日より休止となった。

① パワーリハビリ教室

市内の身体機能の低下した高齢者等に対し、要介護状態等の予防や軽減、また、自立した生活をできるだけ実現すること等を主な目的として実施した。

② パワーリハビリフォローアップ

パワーリハビリ教室終了後の健康維持・体力作り、仲間との交流などを主な目的として実施した。

③ プールリハビリ

水がもつ特性を活かし、下半身への負担を軽減しながら高齢者の体力及び筋力の維持を目的として実施した。

3 地域連携・ネットワーキング

（1）回復期病棟を持つ病院との連携

回復期病棟を持つ近隣の医療機関に出向き、必要な市民が円滑にリハビリテーションサービスを受けられるよう情報交換を行った。

（2）医師会との連携

クリニックやリハビリ事業を利用する患者・利用者を通じてかかりつけ医との連携を図った。リハビリセンター刊行物を発行し、医師会郵送物に同封してもらい、会員にリハビリテーション及びリハビリセンターの周知を図った。

（3）地域の診療所や介護サービス事業者との連携

① 近隣医療機関に出向き、情報交換を行った。

② 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク 地域リハ推進委員会」と連携し、地域リハビリテーション拠点事業の実施に反映させた。

- ③「船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会」に出席し、関係団体として協力した。
- ④船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと運営連絡調整会議に参加し、運営に協力を行った。
- ⑤船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会に参加し、会員である市内外のSWと情報交換を行った。
- ⑥「船橋市通所リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑦「船橋市訪問リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑧「ふなばし訪問看護連絡協議会」と連携を図り、会の運営に協力した。

リハビリテーション総合相談件数

(重複あり)

	センター事業に関する相談			センター以外に関する相談※	訪問看護に関する相談
	クリニック事業に関する相談	リハビリ事業に関する相談	その他		
平成31年4月	27	0	0	3	0
令和元年5月	34	3	0	2	0
令和元年6月	27	2	0	5	0
令和元年7月	53	1	0	5	0
令和元年8月	34	5	0	3	0
令和元年9月	35	1	0	7	0
令和元年10月	33	2	0	7	0
令和元年11月	35	2	0	2	0
令和元年12月	34	1	0	4	0
令和2年1月	41	2	0	4	0
令和2年2月	26	2	1	9	0
令和2年3月	27	0	0	4	0
計	406	21	1	55	0

※センター以外に関する相談の内容

- ・身体機能低下の方への同行訪問について
- ・身体機能低下、認知機能低下の方へのリハビリについて
- ・急性期病院入院中の患者家族より、退院後のリハビリについて
- ・急性期病院入院中の患者家族より、予後およびリハビリによる改善の可能性について
- ・回復期リハ病棟入院中の患者家族より、リハビリの内容について
- ・本人より、身体機能が低下してきたがどうしたらよいか
- ・他院で外来リハが終了となった方より、今後のリハビリについて
- ・他県在住の方より、千葉県へ転居後のリハビリ施設について
- ・他院で通所リハ利用中の方より、リハビリの頻度増について
- ・介護老人保健施設入所中の方の家族より、リハの頻度増について

Ⅱ 利用状況

船橋市リハビリセンターにおける令和元年度の利用実績は以下の通りである。

1 外来患者（一般診療・リハビリテーション）

(1) 外来リハビリテーション患者数（単位：人）

	実患者数	延べ患者数
計	104	3,178

(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

①外来リハビリテーション実績（単位：人）

区分	新規（初診）	再診	計
平成31年4月	1	250	251
令和元年5月	3	234	237
令和元年6月	8	252	260
令和元年7月	9	313	322
令和元年8月	1	298	299
令和元年9月	1	283	284
令和元年10月	3	286	289
令和元年11月	7	260	267
令和元年12月	4	238	242
令和2年1月	8	242	250
令和2年2月	3	242	245
令和2年3月	4	228	232
合計	52	3,126	3,178
1日平均患者	0.2	12.2	12.4

②一般診療実績（通所リハビリテーション利用者への診察）（単位：人）

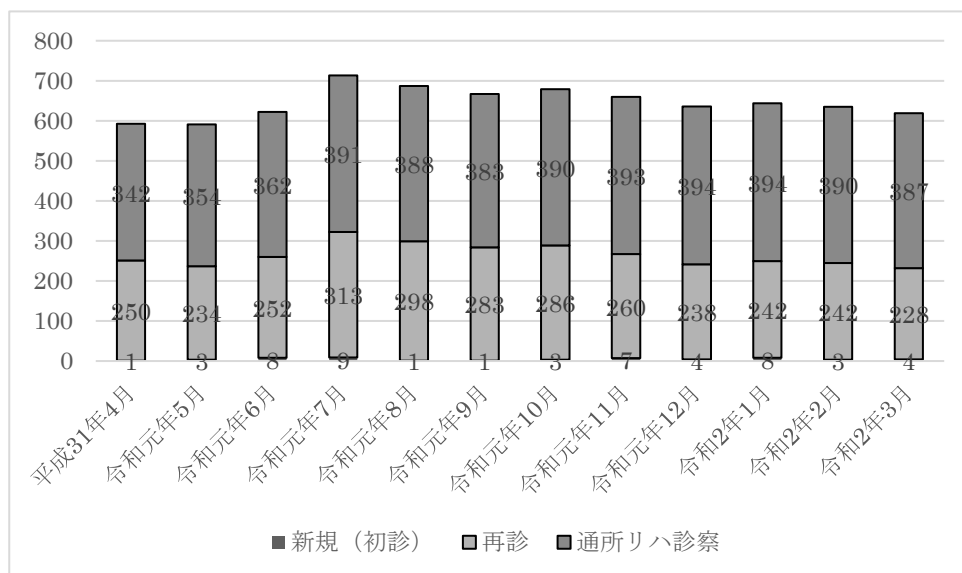
区分	通所リハ診察
平成31年4月	342
令和元年5月	354
令和元年6月	362
令和元年7月	391
令和元年8月	388
令和元年9月	383
令和元年10月	390
令和元年11月	393
令和元年12月	394
令和2年1月	394

令和2年2月	390
令和2年3月	387
合計	4,568
1日平均患者	17.8

③外来診療実績（①＋②）

（単位：人）

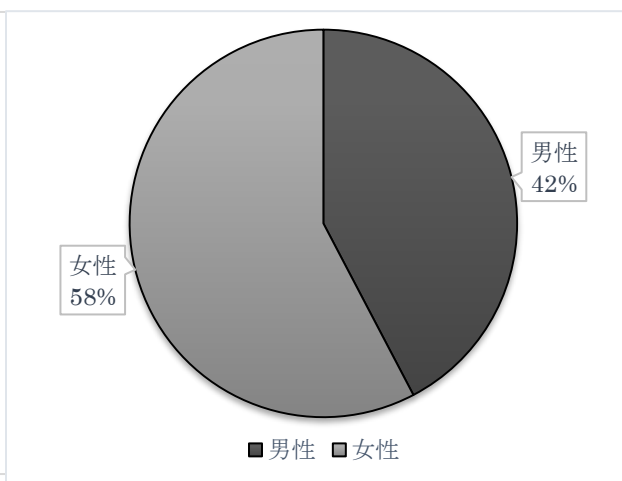
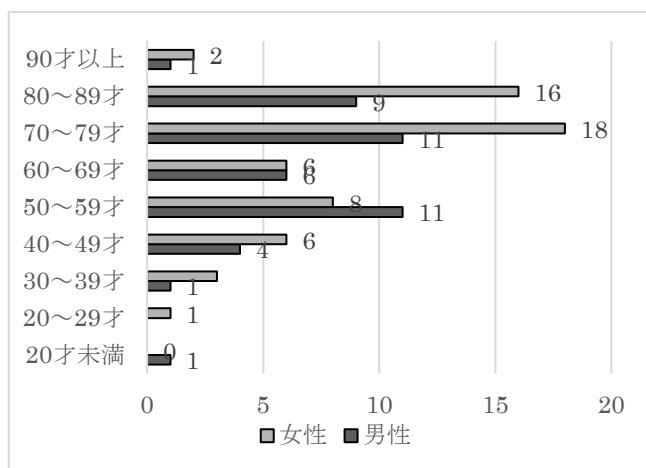
区分	新規（初診）	再診	通所リハ診療	計
平成31年4月	1	250	342	593
令和元年5月	3	234	354	591
令和元年6月	8	252	362	622
令和元年7月	9	313	391	713
令和元年8月	1	298	388	687
令和元年9月	1	283	383	667
令和元年10月	3	286	390	679
令和元年11月	7	260	393	660
令和元年12月	4	238	394	636
令和2年1月	8	242	394	644
令和2年2月	3	242	390	635
令和2年3月	4	228	387	619
合計	52	3,126	4,568	7,746
1日平均患者	0.2	12.2	17.8	30.1



(3) 外来リハビリテーション年齢別・男女別外来患者内訳

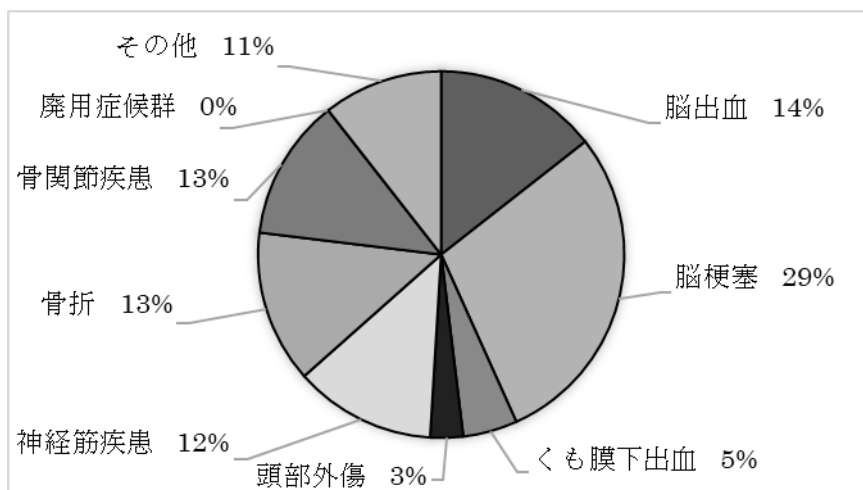
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	1	0	1	0.96%
20～29才	0	1	1	0.96%
30～39才	1	3	4	3.85%
40～49才	4	6	10	9.62%
50～59才	11	8	19	18.27%
60～69才	6	6	12	11.54%
70～79才	11	18	29	27.88%
80～89才	9	16	25	24.04%
90才以上	1	2	3	2.88%
合計	44	60	104	100%
平均年齢	65.5	68.3	66.9	



(4) 外来リハビリテーション疾患別外来患者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	15	14.4%
脳梗塞	30	28.8%
くも膜下出血	5	4.8%
頭部外傷	3	2.9%
神経筋疾患	13	12.5%
骨折	14	13.5%
骨関節疾患	13	12.5%
廃用症候群	0	0.0%
その他	11	10.6%
合計	104	100.0%



(5) 外来リハビリテーション地域別外来患者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	18	17.31%
船橋市芝山	9	8.65%
船橋市前原西	9	8.65%
船橋市習志野台	8	7.69%
船橋市薬円台	8	7.69%
船橋市二宮	5	4.81%
船橋市松が丘	4	3.85%
船橋市前原東	4	3.85%
船橋市三山	3	2.88%
船橋市駿河台	3	2.88%
船橋市三咲	2	1.92%
船橋市新高根	2	1.92%
船橋市中野木	2	1.92%
船橋市旭町	1	0.96%
船橋市海神	1	0.96%
船橋市金杉	1	0.96%
船橋市高根台	1	0.96%
船橋市高野台	1	0.96%
船橋市咲が丘	1	0.96%
船橋市上山町	1	0.96%
船橋市新高根	1	0.96%
船橋市西習志野	1	0.96%
船橋市大穴北	1	0.96%
船橋市滝台	1	0.96%
船橋市坪井東	1	0.96%
船橋市田喜野井	1	0.96%
船橋市南三咲	1	0.96%
船橋市二和東	1	0.96%
船橋市本町	1	0.96%
船橋市湊町	1	0.96%
その他県内	10	9.62%
合計	104	100.0%

2 通所リハビリテーション利用者数

(1) 通所リハビリテーション利用者数

(単位：人)

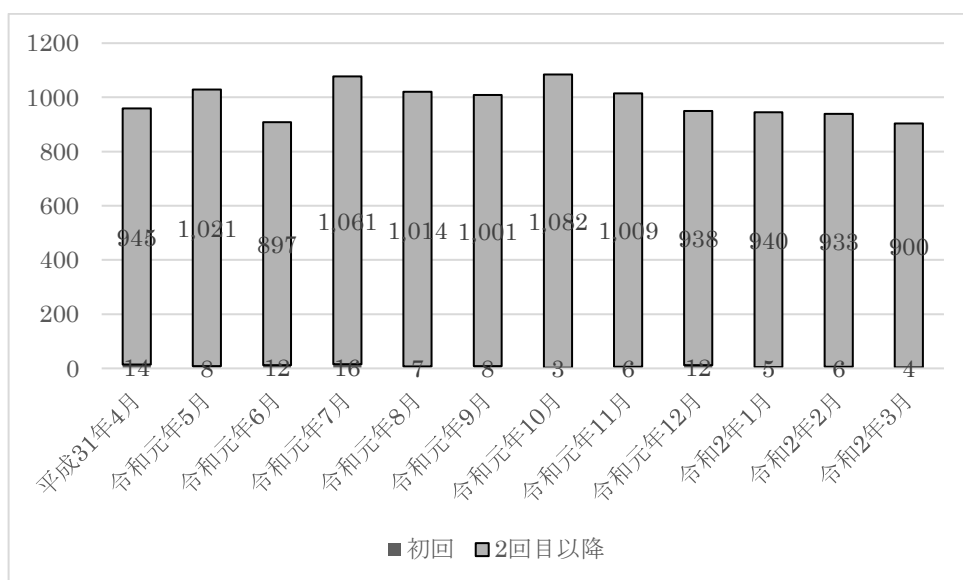
	実利用者数	延べ利用者数
計	239	11,842

(2) 月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

(単位：人)

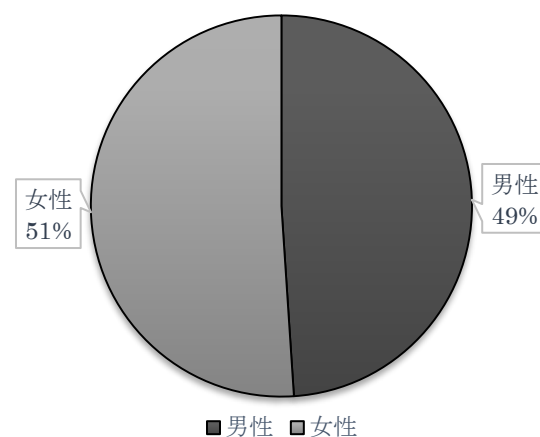
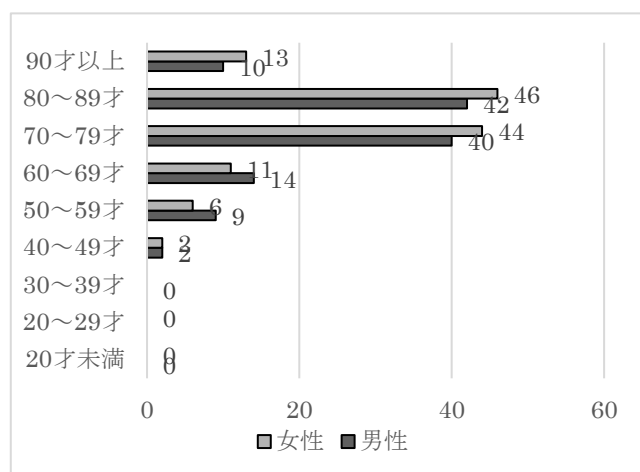
区分	初回	2回目以降	計
平成31年4月	14	945	959
令和元年5月	8	1,021	1,029
令和元年6月	12	897	909
令和元年7月	16	1,061	1,077
令和元年8月	7	1,014	1,021
令和元年9月	8	1,001	1,009
令和元年10月	3	1,082	1,085
令和元年11月	6	1,009	1,015
令和元年12月	12	938	950
令和2年1月	5	940	945
令和2年2月	6	933	939
令和2年3月	4	900	904
合計	101	11,741	11,842
1日平均患者	0.4	45.7	46.1



(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳

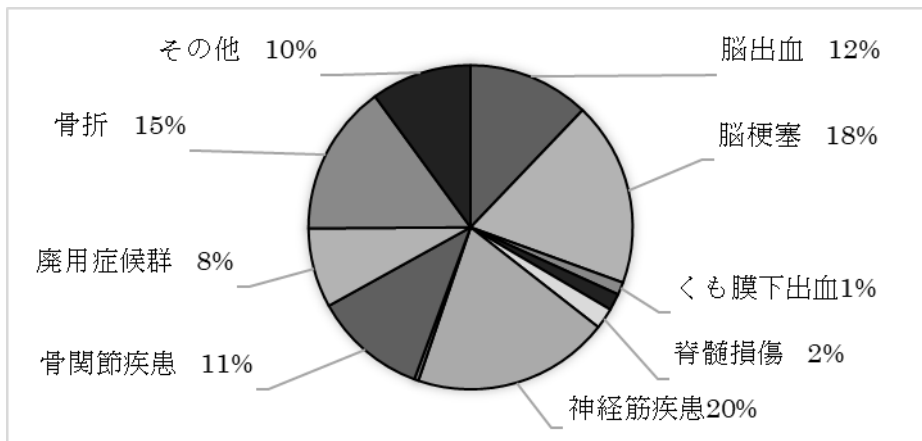
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	2	2	4	1.7%
50～59才	9	6	15	6.3%
60～69才	14	11	25	10.5%
70～79才	40	44	84	35.1%
80～89才	42	46	88	36.8%
90才以上	10	13	23	9.6%
合計	117	122	239	100.0%
平均年齢	76.4	78.5	77.5	



(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳

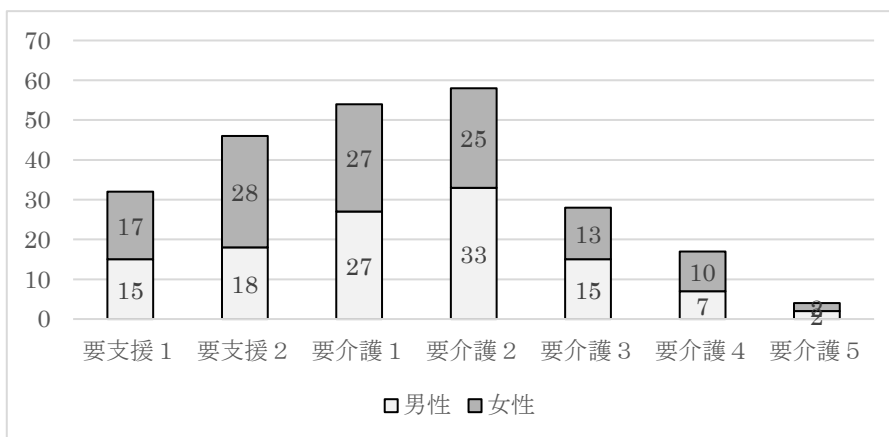
疾患名	患者数	構成割合
脳出血	29	12.1%
脳梗塞	44	18.4%
くも膜下出血	3	1.3%
頭部外傷	4	1.7%
脊髄損傷	5	2.1%
神経筋疾患	47	19.7%
脳腫瘍	1	0.4%
骨関節疾患	27	11.3%
廃用症候群	19	7.9%
骨折	36	15.1%
その他	24	10.0%
合計	239	100.0%



(5) 介護度別分類

(単位：人)

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	15	17	32	13.4%
要支援 2	18	28	46	19.2%
要介護 1	27	27	54	22.6%
要介護 2	33	25	58	24.3%
要介護 3	15	13	28	11.7%
要介護 4	7	10	17	7.1%
要介護 5	2	2	4	1.7%
合計	117	122	239	100.0%



(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市飯山満町	60	25.09%
船橋市前原西	51	21.33%
船橋市前原東	23	9.62%
船橋市芝山	17	7.11%
船橋市薬円台	13	5.44%
船橋市二宮	11	4.60%
船橋市習志野台	7	2.93%
船橋市駿河台	7	2.93%
船橋市中野木	7	2.93%
船橋市高根台	6	2.51%
船橋市三山	6	2.51%
船橋市田喜野井	5	2.09%
船橋市習志野	3	1.26%
船橋市丸山	2	0.84%
船橋市七林町	2	0.84%
船橋市松が丘	2	0.84%
船橋市坪井東	2	0.84%
船橋市夏見	1	0.42%
船橋市海神	1	0.42%
船橋市金杉	1	0.42%
船橋市西習志野	1	0.42%
船橋市大穴南	1	0.42%
船橋市滝台	1	0.42%
船橋市滝台町	1	0.42%
船橋市二子町	1	0.42%
船橋市二和東	1	0.42%
その他県内	6	2.51%
合計	239	100.0%

3 訪問リハビリテーション利用者

(1) 訪問リハビリテーション利用者数

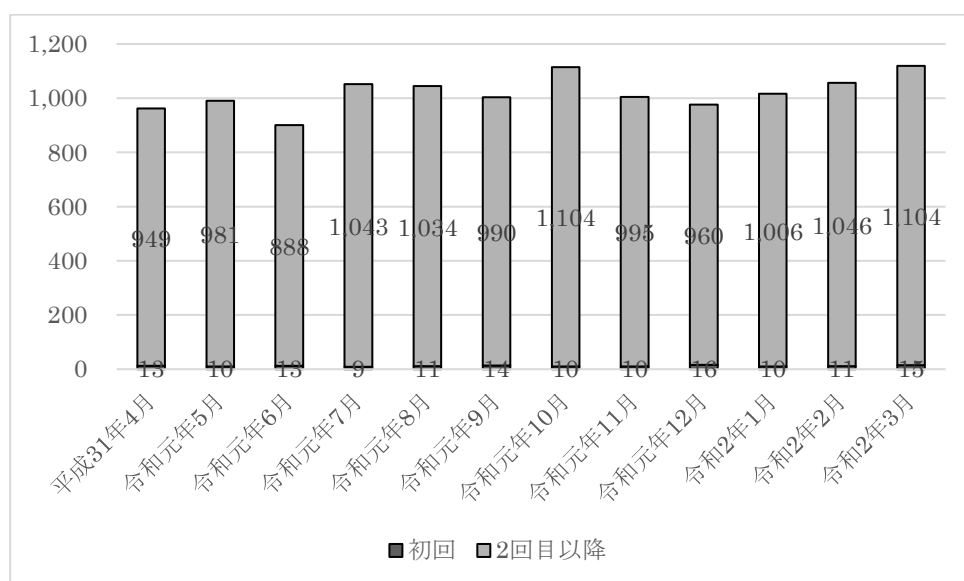
(単位：人)

	実利用者数	延べ利用者数
計	212	12,242

(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	257
------	-----

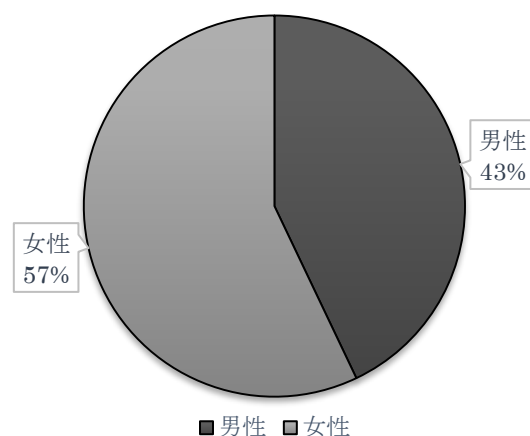
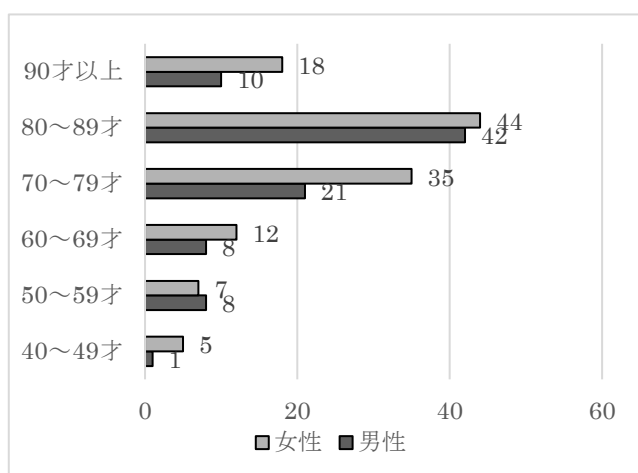
区分	初回	2回目以降	計
平成31年4月	13	949	962
令和元年5月	10	981	991
令和元年6月	13	888	901
令和元年7月	9	1,043	1,052
令和元年8月	11	1,034	1,045
令和元年9月	14	990	1,004
令和元年10月	10	1,104	1,114
令和元年11月	10	995	1,005
令和元年12月	16	960	976
令和2年1月	10	1,006	1,016
令和2年2月	11	1,046	1,057
令和2年3月	15	1,104	1,119
合計	142	12,100	12,242
1日平均患者	0.6	47.1	47.6



(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳

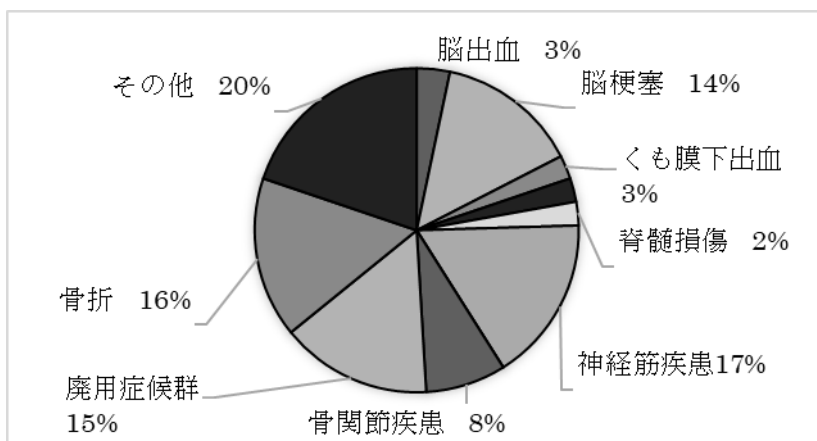
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	1	0	1	0.5%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	1	5	6	2.8%
50～59才	8	7	15	7.1%
60～69才	8	12	20	9.4%
70～79才	21	35	56	26.3%
80～89才	42	44	86	40.6%
90才以上	10	18	28	13.2%
合計	91	121	212	100.0%
平均年齢	77.6	78.1	77.9	



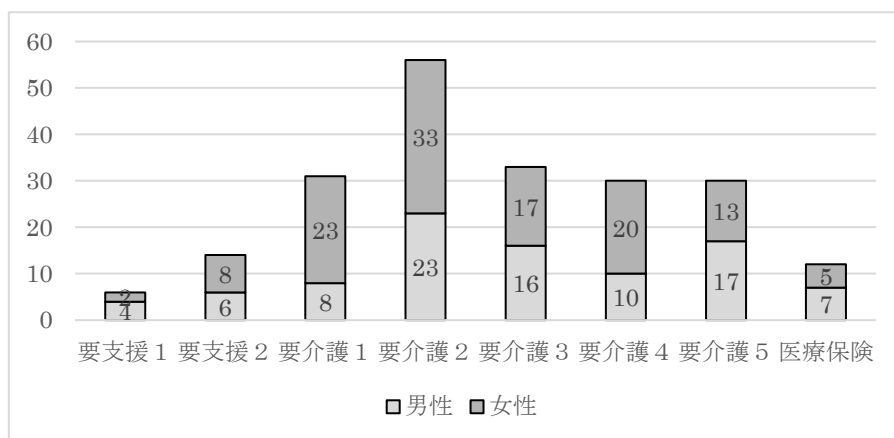
(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合
脳出血	7	3.3%
脳梗塞	30	14.2%
くも膜下出血	5	2.4%
頭部外傷	5	2.4%
脊髄損傷	5	2.4%
神経筋疾患	35	16.5%
脳腫瘍	0	0.0%
骨関節疾患	17	8.0%
廃用症候群	32	15.1%
骨折	34	16.0%
その他	42	19.8%
合計	212	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	4	2	6	2.8%
要支援 2	6	8	14	6.6%
要介護 1	8	23	31	14.6%
要介護 2	23	33	56	26.4%
要介護 3	16	17	33	15.6%
要介護 4	10	20	30	14.2%
要介護 5	17	13	30	14.2%
医療保険	7	5	12	5.7%
合計	91	121	212	100.0%



(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市習志野台	26	12.27%
船橋市飯山満町	20	9.43%
船橋市前原西	18	8.49%
船橋市田喜野井	15	7.08%
船橋市薬円台	15	7.08%
船橋市三山	14	6.60%
船橋市芝山	14	6.60%
船橋市高根台	13	6.13%
船橋市前原東	12	5.66%
船橋市二宮	9	4.25%
船橋市松が丘	8	3.77%
船橋市西習志野	8	3.77%
船橋市緑台	5	2.36%
船橋市習志野	4	1.89%
船橋市新高根	3	1.42%
船橋市中野木	3	1.42%
船橋市東船橋	3	1.42%
船橋市七林町	2	0.94%
船橋市若松	2	0.94%
船橋市滝台	2	0.94%
船橋市夏見	1	0.47%
船橋市宮本	1	0.47%
船橋市駿河台	1	0.47%
船橋市坪井東	1	0.47%
その他県内	12	5.66%
合計	212	100.0%

4 訪問看護利用者

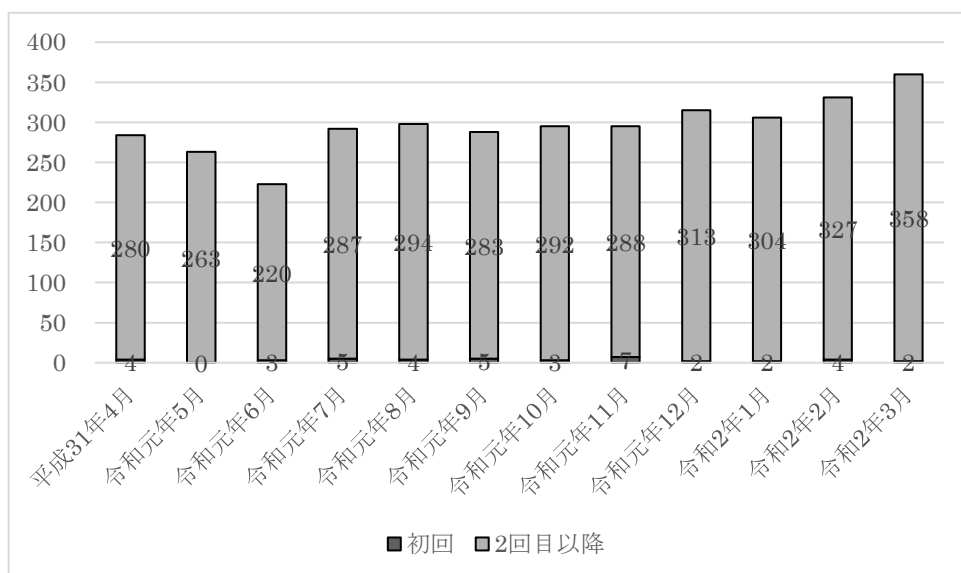
(1) 訪問看護利用者数

	実利用者数	延べ利用者数
計	101	3,550

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳

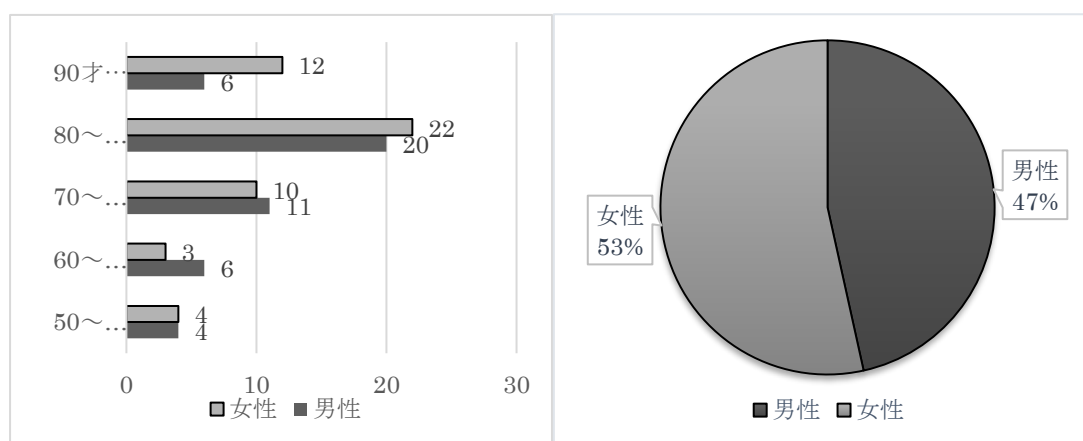
診療日数	257
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
平成31年4月	4	280	284
令和元年5月	0	263	263
令和元年6月	3	220	223
令和元年7月	5	287	292
令和元年8月	4	294	298
令和元年9月	5	283	288
令和元年10月	3	292	295
令和元年11月	7	288	295
令和元年12月	2	313	315
令和2年1月	2	304	306
令和2年2月	4	327	331
令和2年3月	2	358	360
合計	41	3,509	3,550
1日平均患者	0.2	13.7	13.8



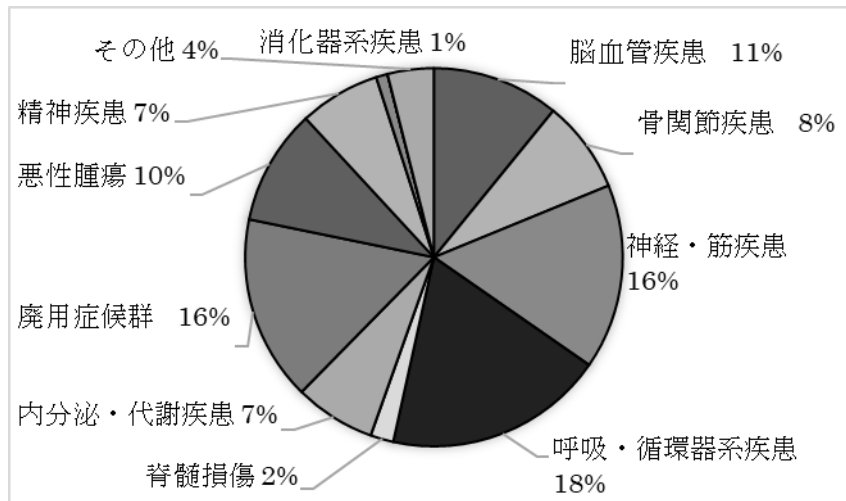
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	1	1	1.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	0	2	2	2.0%
50～59才	4	4	8	7.9%
60～69才	6	3	9	8.9%
70～79才	11	10	21	20.8%
80～89才	20	22	42	41.6%
90才以上	6	12	18	17.8%
合計	47	54	101	100.0%
平均年齢	77.1	79.3	78.2	



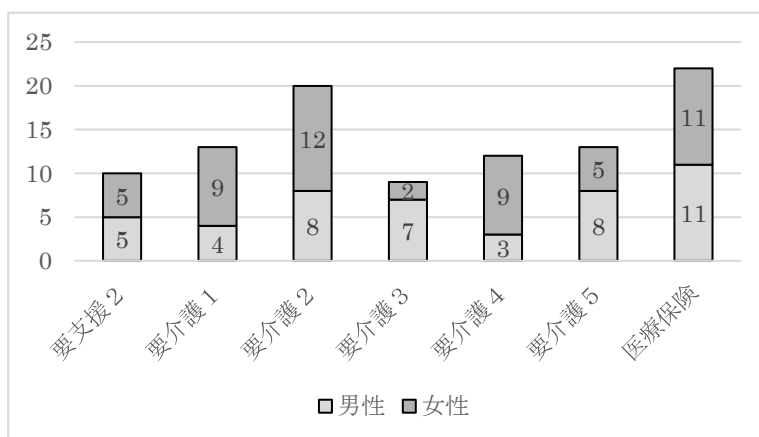
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳血管疾患	11	10.9%
骨関節疾患	8	7.9%
神経・筋疾患	16	15.8%
呼吸・循環器系疾患	19	18.9%
脊髄損傷	2	2.0%
内分泌・代謝疾患	7	6.9%
廃用症候群	16	15.8%
悪性腫瘍	10	9.9%
精神疾患	7	6.9%
消化器系疾患	1	1.0%
内科系疾患	0	0.0%
泌尿器系疾患	0	0.0%
その他	4	4.0%
合計	101	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	1	1	2	2.0%
要支援 2	5	5	10	9.9%
要介護 1	4	9	13	12.9%
要介護 2	8	12	20	19.8%
要介護 3	7	2	9	8.9%
要介護 4	3	9	12	11.9%
要介護 5	8	5	13	12.9%
医療保険	11	11	22	21.7%
合計	47	54	101	100.0%



(6) 地域別訪問看護利用者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	18	17.83%
船橋市前原西	14	13.86%
船橋市芝山	8	7.92%
船橋市薬田台	8	7.92%
船橋市習志野台	7	6.93%
船橋市二宮	5	4.95%
船橋市夏見	4	3.96%
船橋市金杉	4	3.96%
船橋市三山	3	2.97%
船橋市西習志野	3	2.97%
船橋市前原東	3	2.97%
船橋市緑台	3	2.97%
船橋市夏見台	2	1.98%
船橋市高根台	2	1.98%
船橋市高根町	2	1.98%
船橋市習志野	2	1.98%
船橋市駿河台	2	1.98%
船橋市田喜野井	2	1.98%
船橋市金杉台	1	0.99%
船橋市三咲	1	0.99%
船橋市若松	1	0.99%
船橋市新高根	1	0.99%
船橋市滝台	1	0.99%
船橋市中野木	1	0.99%
船橋市坪井東	1	0.99%
船橋市南三咲	1	0.99%
船橋市浜町	1	0.99%
合計	101	100.0%

5 地域リハビリテーション拠点事業

項目	回数
リハビリ関係者向け講演会	1
リハビリ関係者向け研修会	13
市民向け講演会	2
市民向け研修会	2
合計	18

参加者総数	1,198	(単位：人)
-------	-------	--------

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

6 リハビリ事業

(1) パワーリハビリ教室

① パワーリハビリ教室 利用者数

	延べ利用者数
計	1,085

② 月別パワーリハビリ教室（延べ人数）内訳

実日数	80
-----	----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
平成31年4月	109	15
令和元年5月	90	14
令和元年6月	79	14
令和元年7月	140	17
令和元年8月	110	16
令和元年9月	72	16
令和元年10月	127	17
令和元年11月	112	16
令和元年12月	59	14
令和 2年 1月	103	18
令和 2年 2月	84	15
平成 2年 3月	0	14
合計	1,085	—
1日平均患者	13.5	—

(2) パワーリハビリフォローアップ

①パワーリハビリフォローアップ 利用者数

	延べ利用者数
計	10,194

②月別パワーリハビリフォロー（延べ人数）内訳

実日数	219
-----	-----

（単位：人）

区分	利用者数	登録者数
平成31年4月	949	233
令和元年5月	889	232
令和元年6月	909	227
令和元年7月	1022	235
令和元年8月	942	230
令和元年9月	872	229
令和元年10月	962	241
令和元年11月	929	239
令和元年12月	930	235
令和 2年 1月	926	248
令和 2年 2月	864	247
平成 2年 3月	0	247
合計	10,194	—
1日平均患者	46.5	—

(3) プールリハビリ

①プールリハビリ 利用者数

	延べ利用者数
計	4,601

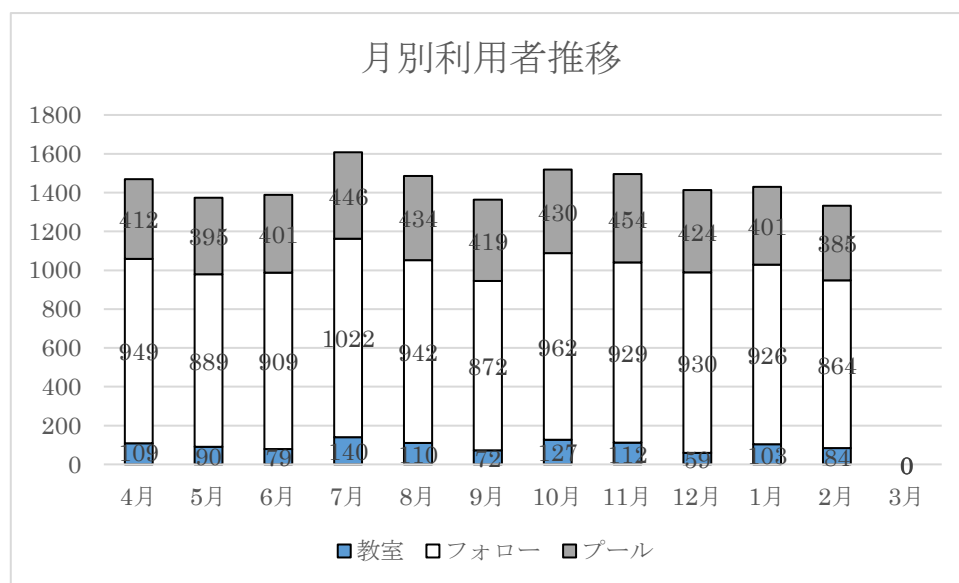
②月別プールリハビリ（延べ人数）内訳

実日数	219
-----	-----

（単位：人）

区分	利用者数	登録者数
平成31年4月	412	126
令和元年5月	395	128
令和元年6月	401	129
令和元年7月	446	133
令和元年8月	434	134

令和元年9月	419	137
令和元年10月	430	143
令和元年11月	454	145
令和元年12月	424	144
令和 2年 1月	401	142
令和 2年 2月	385	142
平成 2年 3月	0	142
合計	4,601	—
1日平均患者	21	—



Ⅲ 収支状況

令和元年度における船橋市リハビリセンターの収支は以下の通りである。

単位：千円

		診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ拠点事業	施設管理	合計
医業収益	利用料	0	0	3,970	0	0	3,970
	指定管理委託料	0	0	31,473	12,430	22,196	66,099
	医療・外来収益	31,001	0	0	0	0	31,001
	介護・外来収益	153,022	19,218	0	0	0	172,240
	受託検査・施設利用収益	0	0	0	0	0	0
	訪問看護収益	0	13,104	0	0	0	13,104
	その他の医業収益	157	265	0	0	0	422
	計	184,180	32,587	35,443	12,430	22,196	286,836
保険等査定減		0	0	0	0	0	0
計		184,180	32,587	35,443	12,430	22,196	286,836
医業費用		201,652	31,277	23,456	12,661	17,264	286,310
医業利益		-17,472	1,310	11,987	-231	4,932	526
本部配賦額		0	0	0	0	0	0
事業利益		-17,472	1,310	11,987	-231	4,932	526
医業外収益	受取利息配当金	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却益	0	0	0	0	0	0
	患者外給食収益	0	0	0	0	0	0
	補助金・負担金	0	0	0	0	0	0
	その他の医業外収益	185	0	0	26	0	211
計		185	0	0	26	0	211
医業外費用	支払利息	0	0	0	0	0	0
	有価証券売却損	0	0	0	0	0	0
	患者外給食材料費	0	0	0	0	0	0
	診療費減免	0	0	0	0	0	0
	貸倒損失	0	0	0	0	0	0
	貸倒引当金繰入額	0	0	0	0	0	0
	資産に係る控除対象外消費税	0	0	0	0	0	0
	繰延消費税等償却	0	0	0	0	0	0
	その他の医業外費用	32	0	0	0	0	32
計		32	0	0	0	0	32
経常利益		-17,319	1,310	11,987	-205	4,932	705
特別利益	固定資産売却益	0	0	0	0	0	0
	施設設備補助金等収入	0	0	0	0	0	0
	その他の特別利益	0	0	0	0	0	0
	特別利益	0	0	0	0	0	0
特別損失	固定資産廃棄売却損	0	0	0	0	0	0
	施設設備補助金等積立金繰入	0	0	0	0	0	0
	有価証券評価損	0	0	0	0	0	0
	その他の特別損失	0	0	0	0	0	0
	特別損失	0	0	0	0	0	0
税引前当期純利益		-17,319	1,310	11,987	-205	4,932	705
法人税・住民税及び事業税負担額		0	0	0	0	0	0
税金等調整額		0	0	0	0	0	0
当期純利益		-17,319	1,310	11,987	-205	4,932	705

医業費用内訳

			診療所	訪問看護	リハビリ 事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	合計
給与費	給料	料	139,423	20,165	15,206	7,286	0	182,080
	賞与	与	15,279	2,596	1,305	1,035	0	20,215
	賞与引当金繰入		0	0	0	0	0	0
	退職給付費用		1,889	394	182	181	0	2,646
	法定福利費		20,530	3,606	1,411	1,245	0	26,792
計			177,121	26,761	18,104	9,747	0	231,733
材料費	医薬品費		7	0	0	0	0	7
	診療材料費		504	4	269	0	0	777
	医療消耗器具備品費		14	0	0	0	0	14
	給食用材料費		0	0	0	0	0	0
計			525	4	269	0	0	798
委託費	検査委託費		0	0	0	0	0	0
	給食委託費		0	0	0	0	0	0
	寝具委託費		0	0	0	0	0	0
	医事委託費		0	0	0	0	0	0
	清掃委託費		0	0	0	0	6,777	6,777
	保安委託費		311	0	0	0	102	413
	その他委託費		1,410	136	106	262	6,957	8,871
計			1,721	136	106	262	13,836	16,061
設備関係費	減価償却費		1,290	1,602	378	0	0	3,270
	賃借料		0	0	0	0	0	0
	地代家賃		6,172	335	0	0	0	6,507
	修繕費		165	0	39	1	0	205
	固定資産税等		19	0	4	0	0	23
	機器保守費		1,962	327	338	0	0	2,627
	機器設備保険料		0	0	0	0	0	0
	車両関係費		3,781	647	0	4	938	5,370
計			13,389	2,911	759	5	938	18,002
	研究費		0	0	0	0	0	0
	研修費		653	27	72	98	0	850
計			653	27	72	98	0	850
経費	福利厚生費		198	39	94	3	0	334
	募集採用費		39	18	0	0	0	57
	旅費交通費		72	1	1	18	3	95
	職員被服費		2,381	293	175	63	0	2,912
	通信費		1,028	402	533	172	0	2,135
	広告宣伝費		5	0	5	306	0	316
	消耗品費		1,404	444	407	360	268	2,883
	消耗器具備品費		123	0	4	0	0	127
	図書費		229	12	0	26	0	267
	会議費		0	0	0	0	0	0
	水道光熱費		1,572	178	0	0	0	1,750
	賃借料		209	14	24	0	330	577
	保険料		105	10	0	0	175	290
	交際費		2	0	0	0	0	2
	諸会費		314	24	0	0	0	338
	租税公課		-115	0	2,898	1,029	1,714	5,526
	貸倒損失		0	3	0	0	0	3
	貸倒引当金繰入		2	0	0	0	0	2
	支払手数料		395	0	5	572	0	972
	寄付金		0	0	0	0	0	0
	雑費		280	0	0	0	0	280
計			8,243	1,438	4,146	2,549	2,490	18,866
			0	0	0	0	0	0
合 計			201,652	31,277	23,456	12,661	17,264	286,310

IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告

1. 利用者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

I 外来患者について

目標1 利用者アンケートによる患者満足度

令和元年度目標：

1. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③待ち時間についてご満足いただけましたか。
2. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和元年度実績：各項目で目標を達成した

1. 外来患者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 90.7%
「満足」のみの割合 : 78.2%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 100.0%
「満足」のみの割合 : 81.2%
 - ③待ち時間について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 90.6%
「満足」のみの割合 : 68.7%
2. 外来患者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 100.0%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 96.9%

目標達成に対する活動状況について

① 職員の対応に関する事項の満足度の向上

サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では令和元年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返った。
また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。

② 待合室に関するサービスの向上

外来の待合室については、受付のレイアウトを来院する患者・利用者の様子を確認し易いよう工夫をし、患者、利用者の待ち時間に対する負担軽減に取り組んだ。

③ 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

④ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

⑤ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和元年度の実績に基づく今後の改善点について

外来患者へのアンケート①から③の満足度においては、各項目で目標を達成した。

リハビリテーションの質・技術については、前年度の「満足」と「やや満足」を足した割合94.7%（「満足」のみ78.9%）と比較するとやや低下したものの高い満足度を得られており、個別リハビリの内容について十分な説明と同意のもと取り組んだ結果、目標を達成することができた。待ち時間については前年度89.4%（84.1%）より「満足」のみの割合が減少したが、これは医師の診療終了後、リハビリを開始するまでの待機の時間が長くなることがあったためと想定される。今後は診療からスムーズにリハビリが開始できるように配慮していく。

また、外来患者へのアンケート④から⑤の満足度も目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和2年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

II 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

令和元年度目標：

平成31年4月から令和2年3月において指定通所リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

令和元年度実績： 18.1%であり、目標を達成した

- ① 平成31年4月から令和2年3月の評価対象期間における通所リハビリテーション終了者数：55名
- ② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：10名
 ※通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ通所リハビリテーションを終了した数。
- ③ ①に占める②の割合：18.1%

内訳)

- ・ 目標達成 7名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・ 耐久性をつけ家事が楽に行える ・ 屋外歩行が安全に行える ・ 買い物ができるようになる	自主トレも実施しており、近所の買い物にもいっているため身体機能を維持できる。
・ 立ち上がりが楽にできるようなる ・ 痛みを改善し100M程度歩行できるようになる ・ 自治会役員の継続	掲げていた目標を達成することができた。運動習慣も自己管理可能となったため、終了。
・ 掃除機での掃除、洗濯など家事が全て行える。 ・ 公共交通機関を利用し外出できる	お一人で都内に行かれたり定期的に外出できている。身体機能は変化なく経過できている。
・ 階段昇降が1足1段で行える	筋力の増強により目標達成。
・ 転倒せず生活できる ・ 歩いて通院できるようになる ・ 電車での外出ができる	関節可動域訓練、筋力増強訓練、歩行訓練、マシントレーニングにより達成。電車・バスの乗降も手すり支持にて問題なく可能。
・ 姿勢の改善や腰痛緩和により安定した歩行や日常生活動作が行える ・ 体幹筋力向上 疼痛軽減 ・ 連続立位時間の延長 ・ ご友人との交流機会が増える	個別訓練・自主トレーニングにより疼痛軽減、交流時間も増える。

・歩行で通院できる ・妻の通うデイサービスへ移行	動量増加してきており、耐久性が獲得、体力もついてきたため終了。
・通所介護への移行 3名	
目標達成に対する活動状況について ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）通所リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。 ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者の日常生活動作（ADL）と外出や買い物等の手段的生活動作（IADL）が向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。 ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。 ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。 ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。	
令和元年度の実績に基づく今後の改善点について 通所リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は18.1%となり、目標（5%以上）を達成した。このことにより、質の高いリハビリテーションを提供し利用者のADLとIADLについて維持・向上できたことが裏付けられる。 令和2年度も同様に取り組んでいく。	

目標3 介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合100分の50以上

令和元年度目標：

介護職員の総数のうち、介護福祉士の占める割合を100分の50以上とする。

令和元年度実績：100%であり、目標を達成した

介護福祉士の占める割合：100%

(全体の介護職員数3人　うち介護福祉士3人)

目標達成に対する活動状況について

- ①中重度の要介護者や認知症高齢者に対応できるケア体制を確保した。
- ②法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、無駄のない配置に努めた。

令和元年度の実績に基づく今後の改善点について

介護ニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、介護職員の安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、介護福祉士の占める割合は100%の実績であり、非常に質の高い介護サービスが提供できたと言える。

令和2年度も引き続き、在宅生活を支援するため介護サービスの充実を図る。

目標4 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

令和元年度目標：

利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数3年以上のスタッフが占める割合を100分の30以上とする。

令和元年度実績：100%であり、目標を達成した

勤続年数3年以上の者の占める割合：100%

(全体の職員数22人　うち勤続年数3年以上の職員数22人)

経験年数	人数
3年未満	0人
3～5年	4人
5～10年	14人
10年以上	4人

目標達成に対する活動状況について

①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

令和元年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は100%の実績となり、一定以上の質が保たれた介護サービスが提供できたと言える。

令和2年度も引き続き、在宅生活を支援するための介護サービスの充実を図る。

目標5 利用者アンケートによる患者満足度

令和元年度目標：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③通所リハビリのスケジュールについてご満足いただけましたか。
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和元年度実績： 5項目中、1項目で目標を達成できなかった

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①個別リハビリテーションについて

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 88.9%
「満足」のみの割合	: 63.9%
 - ②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 96.3%
「満足」のみの割合	: 78.9%
 - ③通所リハビリのスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 81.5%
「満足」のみの割合	: 57.4%
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	: 98.2%
-------------------------	---------
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	: 97.3%
-------------------------	---------

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上

サービス向上委員会を設置し、輝生会接遇推進本部立会いのもとセンター内ラウンドを月一回実施した。委員会では令和元年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返った。

また、前年に引き続き、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。
- ② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。ま

た、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和元年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度は概ね目標を達成したが、通所リハビリのスケジュールについての「満足」のみの割合が目標値の60%を達成できなかった。通所リハビリのスケジュールについては前年度は「満足」と「やや満足」を足した割合81.2%（「満足」のみ60.9%）であった。医師による診察と多職種によるカンファレンスにて必要な頻度を決定し、利用者本人・家族・ケアマネジャーへ説明・共有するが、希望通りの頻度や日時にならない場合もあり、満足度が下がってしまった可能性がある。あらためて丁寧な説明を心掛け、利用者本人が納得し、満足度が上がるよう取り組んでいきたい。

また、通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度は目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和2年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標6 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

令和元年度目標：

平成31年4月から令和2年3月において指定訪問リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の5以上とする。

令和元年度実績： 21.5%であり、目標を達成した

① 平成31年4月から令和2年3月の評価対象期間における指定訪問リハビリテーション終了者数：102名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：22名

※通所リハビリテーション、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業、また、居宅における家庭での役割を担うことができ訪問リハビリテーションを終了した数。

③ ①に占める②の割合：21.5%

内訳)

・目標達成 17名

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・職場に顔を出せる ・カラオケに参加したい	職場に顔も出せ、カラオケにも参加できるようになったため終了。
・北習志野駅まで歩行することができる ・お風呂動作の自立	筋力・バランスともに向上した。外出も定着しており、一人で出かけることができる。
・段差昇降、坂道でも安全に移動できる ・バスに乗って船橋駅まで出れる ・飯山満駅までリハビリ事業に参加できるようになる	杖無しでの歩行も問題なく行えている。リハビリ事業にも定期的に通われており、特に日常生活の不安要素はなくなっている。
・30分の屋外歩行可能 ・散歩の習慣化・自宅の掃除ができる	歩行が安全に行えるようになり、薬園台駅前の公園での友人との交流にも歩行でいくことができおり、歩行距離は延長された。ヘルパーと協力して掃除を実施できるようになった。
・痛み少なく自宅内の生活動作が行える ・外出が再開できる	生活も安全に行えており、外出も問題ない為訪問リハビリ終了となる。
・乗り移り動作や立位での生活動作	自宅で安全に歩けるようになったと

が安定して行える ・通所リハビリへ移行 5名	いう自覚もあり終了とする。
目標達成に対する活動状況について ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）訪問リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。 ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者のADLとIADLが向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。 ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。 ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。 ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。	
令和元年度の実績に基づく今後の改善点について 訪問リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は21.5%となり、目標（5%以上）を達成した。質の高いリハビリテーションを提供し、利用者のADLとIADLについて維持・向上できたことが裏付けられる。 令和2年度も同様に取り組んでいく。	

目標7 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

令和元年度目標： 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合を100分の30以上とする。
令和元年度実績： 100%であり、目標を達成した 勤続年数3年以上の者の占める割合：100% 理学療法士 12人 （うち勤続年数3年以上の者） 12人 作業療法士 5人 （うち勤続年数3年以上の者） 5人 言語聴覚士 2人 （うち勤続年数3年以上の者） 2人
目標達成に対する活動状況について ①法人本部に設置する教育研修局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。
令和元年度の実績に基づく今後の改善点について リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は100%の実績であり、一定以上の質が保たれたサービスが提供できたと言える。 令和2年度も引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

目標8 利用者アンケートによる患者満足度

令和元年度目標：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③訪問のスケジュールについてご満足いただけましたか。
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が75%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和元年度実績：各項目で目標を達成した

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 86.3%
「満足」のみの割合	: 67.4%
 - ②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 92.6%
「満足」のみの割合	: 77.9%
 - ③訪問リハビリのスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合	: 87.3%
「満足」のみの割合	: 67.3%
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	: 93.6%
-------------------------	---------
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について

「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合	: 91.5%
-------------------------	---------

目標達成に対する活動状況について

- ①職員の対応に関する事項の満足度の向上

法人の教育研修局が基軸となり、訪問リハビリに従事する全職員に対し、訪問療法士としての姿勢・態度、利用者・家族の生活の視点、情報収集・説明責任、訪問リハビリの基本的視点、リスク管理、多職種協同の具現化などについて指導を行った。また、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。
- ②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。ま

た、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④満足度調査の結果だけでなく、訪問時に利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和元年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度は、各項目で目標を達成した。リハビリテーションの質・技術は前年度は「満足」と「やや満足」を足した割合79.7%（「満足」のみ55.1%）と満足のための割合で目標値の60%を下回ったが、接遇を意識し丁寧な対応を実践し、令和元年度は86.3%（67.4%）と大きく改善することができた。

また、訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度も目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和2年度は、訪問リハのニーズが高いため、年度途中でリハビリスタッフを1名増員することにより利用者増加を図るなど、更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

IV 訪問看護利用者について

目標9 利用者アンケートによる患者満足度

令和元年度目標：

訪問看護利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

令和元年度実績：各項目で目標を達成した

①訪問看護について

「満足」と「やや満足」を足した割合：97.1%

「満足」のみ割合：88.5%

②職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合：97.1%

「満足」のみ割合：82.8%

③訪問看護のスケジュールについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：100.0%

「満足」のみ割合：91.4%

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

適宜、訪問看護ステーションの所長が職員の訪問に帯同し、訪問看護の内容や接遇を把握し指導を行った。また、全体会議や朝のミーティングを通じて、接遇について各職員から発表を行うなどして、意識付けを行った。

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③訪問看護の提供に当たっては、職員の知識・技術向上研修等で満足度の向上を目指した。また、利用者ごとに毎月発行する訪問看護計画・報告書を訪問看護ステーション所長が全例を確認し、職員の技術向上を図った。

令和元年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問看護利用者へのアンケート①から③の満足度において、各項目で非常に高い割合をもって目標を達成した。

また、訪問看護職員の採用に苦慮する中、訪問スケジュール調整においても、利用者の便宜を図った結果、高い満足度を得ることができた。

令和2年度も引き続き同様の活動を行い、更なる患者満足度の向上を図る。

V リハビリ事業利用者について

目標10 利用者アンケートによる満足度

令和元年度目標：

リハビリ事業利用者へのアンケート項目の内、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

令和元年度実績：3項目中、1項目で目標を達成できなかった

①職員の対応について

「満足」と「やや満足」を足した割合：99.0%

「満足」のみの割合：87.2%

②パワーリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：94.5%

「満足」のみの割合：56.9%

③プールリハビリについて

「満足」と「やや満足」を足した割合：87.8%

「満足」のみの割合：63.4%

目標達成に対する活動状況について

①職員の対応に関する事項の満足度の向上

②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

職員の対応については「外来患者・通所リハビリ・訪問リハビリ患者または利用者満足度」の活動状況に記載したとおり接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。

また、患者・利用者のプライバシーへの配慮についても、同様な対応をとり満足度の向上を図った。

③待ち時間に対する満足度の向上

利用者が増加したことにより、定員を超えて事業を実施する日が生じたことから、施設管理上の安全面に支障をきたす状況が予想されたため、船橋市と協議し、利用者に対し平成28年1月から1人週1回を上限とした利用回数の制限したが、平成28年度よりリハビリ事業管理者を設置。平成28年6月よりパワーリハビリフォロー利用枠を2枠増加することで利用者への制限を緩和した。さらに、平成29年度からは予約システムを導入。これにより、利用定員を定め、安全に各種マシンを利用することが実現した。令和元年度においても、同予約システムの運用を継続し、平等な利用環境を提供することができた。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和元年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリ事業利用者へのアンケート①から③の満足度においては、概ね目標を達成したが、パワーリハビリの「満足」のみの割合が60%を達成できなかった。パワーリハビリは前年度は「満足」と「やや満足」を足した割合95.8%（「満足」のみ

62.5%)であった。パワーリハビリの満足度が達成できなかった要因としては、利用者増加に伴い、「予約が取りにくくなった」、「マシンが足りない」、「定員数が多い」などの利用者の意見があったことが挙げられる。一方プールリハビリは、定員枠を増やしたことでスムーズに予約を行うことができるようになり、前年度の94.0%（53.7%）から大きく改善した。

全体的に「満足」と「やや満足」を合わせればいずれも高い割合は維持できていることから、利用率の高い状況下においても利用者の安全性の確保や、利用し易い施設運営は図れていると考えられる。

令和2年度においても引き続き、患者満足度の維持・向上を図る。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標11 診療所部門 経常収支比率

令和元年度目標： 診療所経常収支比率 100%以上	
令和元年度実績： 診療所経常収支比率 91.4% と目標を達成できなかった ※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して 100を乗じて算出した割合で算出。	
目標達成に対する活動状況について ① 増患対策 ・ 外来リハ件数（紹介件数）の増加対策として、船橋市立医療センター等急性期病院へ定期訪問し、当クリニックの案内を実施した。 ・ 外来リハビリ患者の増加を目指し、回復期病棟を持つ近隣医療機関へ紹介を行った。また、船橋市立リハビリテーション病院と当クリニックの空き枠情報を共有し、リハ病院退院患者で当クリニックに居住地が近い患者の積極的な受け入れを行った。 ・ 令和元年9月より非常勤医師の勤務日数を週2→週3日に増加し、外来・通所の新患外来を積極的に実施。またこれにより往診枠を確保し、訪問リハ件数が増加しても3ヶ月に1回の往診が継続できる体制とした。 ・ 通所リハビリ、訪問リハビリ利用者の増加を目指し、サービスエリア内の居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。 ・ センター機関誌を有効活用し、地域・医師会・居宅介護支援事業所・在宅へセンターの情報発信を実施した。 ② 費用の削減 ・ 患者・利用者の減少時・増加時に無理・無駄の無いスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する教育研修局を通じ、他の拠点との人事異動を可能にし、常に適切な人員配置に努めた。	
令和元年度の実績に基づく今後の改善点について ※外来リハ 令和元年度実績 30.1人／日（前年度対比 -2.5人／日） ※通所リハ 令和元年度実績 46.1人／日（前年度対比 -0.5人／日） ※訪問リハ 令和元年度実績 47.6人／日（前年度対比 +2.2人／日） 外来リハ・通所リハは平成31年3月末の終了患者が多く、4月・5月の患者が少なかったことや、令和2年2月後半から新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大によりキャンセルが急増したことから、前年度より患者数は減少した。 令和元年度の経常利益は-17,319千円で、診療所経常収支比率は91.4%であった。 令和2年度においては引き続き新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しながら、患者・利用者が安心して通院できるよう、クリニック運営を行っていく。 なお、訪問リハのニーズの増加に対応するため、年度途中でリハビリスタッフを1名増員するなど、利用者の増加を図る予定である。	

目標12 訪問看護部門 経常収支比率

令和元年度目標： 訪問看護経常収支比率 100%以上

令和元年度実績： 訪問看護経常収支比率 104.2% と目標を達成した
 ※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して
 100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・サービスエリア内居宅介護支援事業所へ出向き情報交換を実施した。
- ・ケアマネジャー向け交流会を実施した。
- ・訪問看護からの訪問リハ（訪問看護Ⅰ5）を実施し、訪問看護・訪問リハの併用が必要な利用者についてケアマネジャーが依頼しやすい体制を整え、訪問看護件数の増加を図る。

②費用の削減

- ・看護師の採用は非常に困難な状況が続いており、紹介会社経由で採用すると高額な紹介手数料が発生する。可能な限り紹介会社を使わなくてすむよう、ハローワークや地域への広告、同法人他拠点の退職希望者への声掛けなどを行うことで、費用を抑えた採用につなげたい。

令和元年度の実績に基づく今後の改善点について

※訪問看護 令和元年度実績 13.8人／日（前年度対比 -0.7人／日）

訪問看護は年度初めは新規依頼が少なく、訪問終了やキャンセル、利用者の入院による中止等も重なり、患者数は減少した。また増加傾向となる月もあったが、年間通しては前年度より減少した。それに合わせ、予約件数に応じた人員配置を行い、効率的な運営を行った。

令和元年度の経常利益は1,310千円で、訪問看護経常収支比率は104.2%であった。

令和2年度においては引き続き新型コロナウイルスの感染対策を徹底しながら、非常勤看護師2名を採用し、利用者増加を図っていく。

3. その他管理に関する重要事項

目標13 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う

令和元年度目標：	
地域リハビリテーション拠点事業に定めた事業内容を最低限行うこと。	
令和元年度実績： 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リハビリ関係者向け研修会2回、リハビリ関係者向け講演会1回がそれぞれ中止となったが、その他については計画通り事業を実施した。	
目標達成に対する活動状況について	
①リハビリセンターパンフレット作成	1回/年
②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布	2回/年
③リハビリセンター刊行物の作成、配布	4回/年
④ホームページに最新情報を掲載	2回/年
⑤市民向け講演会開催	2回/年
⑥市民向け研修会開催	2回/年
⑦リハビリ関係者向け講演会開催	1回/年
⑧リハビリ関係者向け研修会開催	13回/年
⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告	2回/年
⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行う。	
⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行う。	
(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)	
令和元年度の実績に基づく今後の改善点について	
【資料9】地域リハビリテーション拠点事業アンケートに示すとおり、研修会の内容について5段階でアンケートを実施したところ、全アンケートの平均として「①とても良い」 60%、「②良い」 35%という結果となり、全体の「とても良い」と「良い」の割合が95%と高い満足度を得られた。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、状況に合わせた形での地域リハビリテーション拠点事業の展開を検討していく。	